

I GRASS と CEPEAS の学術交流協定調印

9月29日に和田センター長と堀江副センター長は広島大学 IDEC 国際連携機構傘下の平和な未来持続可能性センター（Center for Peaceful and Sustainable Futures: CEPEAS）を訪問し、両センターの学術交流協定を調印しました。広島大学大学院国際協力研究科が長年培ってきた国際協力・国際開発に関する教育研究資産を継承するかたちで広島大学のグローバル化を先導する役割を担う IDEC 国際連携機構ですが、その傘下には CEPEAS の他に教育開発国際協力研究センター（CICE）、プラネタリーヘルス・イノベーションサイエンスセンター（PHIS）、グローバルパートナーシップセンター（CGP）など4つのセンターがあります。なかでも、平和的で持続可能な未来の構築に向けた政策立案に寄与する学際的・超学際的研究や教育活動を実施する CEPEAS は、GRASS との親和性が高く、すでに CEPEAS の Ghulam Dastgir Khan 先生は、何度も富山に来訪し、GRASS の活動に参加してくださっています。Khan 先生こそ、本学術交流協定締結に向けて熱心に奔走してくださった立役者です。

協定調印式では、IDEC 国際連携機構長市橋勝教授と Khan 先生に隣席いただき、CEPEAS の Avvyood Sharifi センター長が学術交流協定書に調印しました。その後、Sharifi センター長より CEPEAS の活動に関する紹介があり、GRASS 和田センター長からは GRASS の活動に関する紹介、堀江副センター長からは大学院持続可能社会創成学環の紹介を行い、両機関における共同研究や共同イベントに関しての意見交換が行われました。



写真） 左が Sharifi センター長、右が和田センター長

広島大学と富山大学は列車だけでも4時間以上かかる遠さですが、両センターの親和性は高く、今後の両センターの協力関係の発展を期待したいと思います。

II TOMIDAI Global SciFrontiers

富山大学が主催するサマースクール TOMIDAI Global SciFrontiers: Interdisciplinary Thinking: Silos to Synergy が、9月24-29日に開催されました。50名を超える海外からの参加者を得たこのサマースクールのプログラムのひとつに本学大学院持続可能社会創成学環と GRASS が協力して9月27日の Morning Session: Sustainability Science and Health を提供しました。このセッションでは、まず、和田センター長が開会のご挨拶を行い、学環や GRASS の紹介を行い、続いて、堀江学環長が Sustainability Studies and Global Risk と題した基調講演を行いました。休憩の後、今年3月まで GRASS に在籍していた信州大学楊潔助教が、Prenatal Exposure to Air Pollution and Child Health を題する講演を行い、経済学が大気汚染が子どもにどのような影響を与えるか、経済学の考え方を丁寧に導きながら、専門外の方にも興味深いお話をされました。



写真） 楊潔先生の講演の様子

このセッションの終了後、学生のみなさんは、Practical Training “Water Circulation and City Planning”に参加しました。富岩運河還水公園より水上ラインに乗りました。船上では、運河の成り立ち、工業地帯の成り立ちなどの説明とともに船からの景色を楽しみ、中島閘門では、船から下りて「水のエレベーター」を見学し、岩瀬の街に到着すると、老舗の松月さんのご厚意で、店の人力車に乗って記念撮影をしたり、学生さんたちは大はしゃぎでした。旧馬場家で岩瀬の成り立ちや古い街並みの説明にも熱心に耳を傾け、時間はあっという間に過ぎ、楽しい富山での思い出が作れたようでした。ハードなプログラムに参加していた学生のみなさんにとって、富山の魅力を実感する野外実習になったのではないかと思います。このサマースクールの実施に携わった教員、職員のみなさん、おつかれさまでした！

Ⅲ ギータ・モハン教授エストニアからの便り

ギータ・モハン教授は、富山大学による「グローバル人材育成のための海外短期滞在プログラム」の支援を受け、現在エストニアにおいて3か月間の研究滞在を行っています。本プログラムは、国際的な学術交流の促進とグローバルに活躍できる研究者の育成を目的としており、ギータ教授の研究テーマは「持続可能な海洋および沿岸生態系管理」です。

ギータ教授は、2025年8月1日から10月31日まで、エストニア生命科学大学（EMÜ）生物多様性・自然観光学講座に滞在し、インドレック・メルツ博士との共同研究を進めています。学術的な交流とフィールドワークを組み合わせた今回の滞在は、EMÜと富山大学との連携強化にもつながっています。

現地での研究活動としては、リヴォニア湾沿岸の漁業コミュニティ（ヴォイステ、ヤーグピ、トレイマニ、ヤプシ、ヴァナ・サウガ、リンディ、リウなど）を対象に現地調査を実施しています。現地の漁師たちと直接対話を重ね、生計手段、漁法、社会経済的課題、環境変動が与える影響などについての情報を収集しています。これらの知見は、海洋・沿岸生態系の持続可能な管理に向けた戦略策定に貴重なデータを提供しています。

さらにギータ教授は、EMÜでの研究活動に加え、タルトゥ大学とも連携を深めています。Markus Vetemaa教授（エストニア海洋研究所所長）をはじめ、同研究所漁業情報部門のToomas Armulik氏およびErko Veltson氏ら専門家との意見交換を行い、知見の共有やベストプラクティスの探求、将来的な共同研究の可能性を探っています。

今回の3か月間の滞在は、海洋保全研究における国際的連携の重要性を改めて示すものです。地域コミュニティの知識と国際的な科学的知見を結びつけることで、EMÜおよびタルトゥ大学との協働は、環境問題の解決に向けた研究の発展と、グローバルに活躍できる人材の育成の両面で大きな意義を持っています。



写真) 漁村で調査するギータ教授

Ⅳ 富山市スケッチ Lab イベント協力

とやま未来共創チームが主催した「すれ違いから学ぶ環境づくり：現場の声をつなぐ対話型ワークショップ」が9月25日にスケッチラボ（富山駅前 CiC ビル3階）で開催されました。本イベントは、本学大学院持続可能社会創成学環が協力しており、GRASSメンバーの和田センター長と堀江教授も傘下しました。持続可能社会創成学環の院生のみなさんも多数参加し、日本で働く外国人労働者のリアルな体験談を聞き、参加者同士のグループ対話を通じて、すれ違いから学べることを模索する貴重な体験となりました。とやま未来共創チームは、市内の20～40歳代の若手経営者や起業家を中心になって構成する官民連携組織で、このイベントにも外国人とともに暮らし働く様々なステークホルダーのみなさんが参加し、活発な意見交換が行われました。今後もその取り組みの協力依頼があり、GRASSとしてもできるだけ協力していこうと考えています。



写真) スケッチラボでの様子

GRASS NEWS

【イベント・往来】

2025年9月27日：GRASSメンバーは、富山大学で開催されたサマースクール TOMIDAI Global SciFrontiers: Interdisciplinary Thinking: Silos to Synergy にセッションとスタディーツアーを提供し、協力しました。

2025年10月9日～11月29日：UiT the Arctic University of Norway の Elisabeth Cooper 教授が GRASS にて在外研究をされています。

【GRASS スタッフの活動】

Geetha Mohan：2025年8月から10月まで Estonian University of Life Sciences 在外研究を行っています。

和田直也・堀江典生：2025年9月29-30日に広島大学 Center for Peaceful and Sustainable Futures: CEPEAS との学術交流協定締結のため、広島大学に出張しました。



〒930-8555 富山県富山市五福3190
研究推進機構 サステナビリティ国際研究センター



<http://www3.u-toyama.ac.jp/grass>